

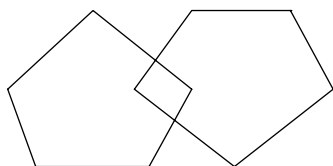
5 . M M S E (Mini-Mental State Examination) の検査について

1) 検査方法

Folstein夫妻の開発した、精神現在症(Mental state)の臨床評価の簡略版です。通常、静かな部屋や場所
で実施します。原則して、質問は設問1から始めます(途中から質問することも可能ですが、その場合でも、
設問3から設問5までは続けて実施してください)。なお、途中で短い休憩を入れることは問題ありません。

表 . Mini-Mental State Examination (M M S E)

設 問	質 問 内 容	回 答	得 点
1 (5 点)	今年は何年ですか	年	0 1
	今の季節は何ですか		0 1
	今日は何曜日ですか	曜日	0 1
	今日は何月何日ですか	月 日	0 1 0 1
2 (5 点)	この病院の名前は何ですか	病院	0 1
	ここは何県ですか	県	0 1
	ここは何市ですか	市	0 1
	ここは何階ですか	階	0 1
3 (3 点)	物品名3個(桜、猫、電車)		0 1
	《1秒間に1個ずつ言う。その後、被験者に繰り返させる。正答1個につき1点を与える。3個全て言うまで繰り返す(6回まで)》		2 3
4 (5 点)	100から順に7を引く(5回まで)。		0 1
			2 3
			4 5
5 (3 点)	設問3で提示した物品名を再度復唱させる		0 1 2 3
6 (2 点)	(時計を見せながら) これは何ですか		0 1
	(鉛筆を見せながら) これは何ですか		0 1
7 (1 点)	次の文章を繰り返す 「みんなで、力を合わせて綱を引きます」		0 1
8 (3 点)	(3段階の命令)		
	「右手にこの紙を持ってください」		0 1
	「それを半分に折りたたんで下さい」		0 1
9 (1 点)	(次の文章を読んで、その指示に従って下さい)		
	「右手をあげなさい」		0 1
10 (1 点)	(何か文章を書いて下さい)		0 1
11 (1 点)	(次の図形を書いて下さい)		0 1
			得点合計



(重なり合う五角形です)

(Folstein MF et al. J Psychiat Res 12: 189, 1975)

2) MMS Eの検査の具体的手技

<設問1>

「今年は、何年ですか」と聞きます。何年については、「平成何年ですか」と聞いても、OKです。正しい回答なら、言い直しても「正答」です。次に、「今の季節は何ですか」、「今日は、何月何日ですか」、「今日は何曜日ですか」と、同様に聞きます。なお、日については、一日でも間違った場合は、誤答とします。

<設問2>

「この病院（診療所）の名前は何ですか」と聞きます。正確な名称でなく、通称や略称でも正答です。次に、「ここは何県ですか」、「ここは何市（何町）ですか」、「ここは何階ですか」、「青森県は東北地方ですが、ここは何地方ですか」と聞きます。

<設問3>

「これから言う3つの言葉を覚えてください。」と言った後、「桜、猫、電車」または「桜と、猫と、電車」と、1語ずつおよそ1秒間隔でいいます。耳が遠い人もおり、繰り返しが出来るまで、幾度も繰り返して下さい。なお、6回繰り返しても3つの言葉を繰り返せない場合は、その時に言えた言葉の数を記入してください。最後に、「今覚えた3つの言葉を後でまた聞きますので、覚えて置いてください」と念を押してください。

<設問4>

100から7を順に引く場合、まず「100から7を引いて下さい」と聞きます。「93」と正解した場合は、「それからもう一度7を引いてください」と聞きます。この場合、「93から7を引いてください」とは聞かないでください。「86」と正解した場合は、「それからもう一度7を引いてください」と聞きます。この場合も、「86から7を引いてください」とは、聞かないでください。この質問の形で、7を連続5回引いてゆきますが、間違えた場合には、その時点で中止します。

<設問5>

「先ほど覚えてもらった3つの言葉を、思い出してください」と聞きます。順番は問いません。また、「動物」、「植物」、「乗り物」などのヒントを与えても良いです。

<設問6>

時計を見せながら、「これはなんですか」と聞きます。次に、鉛筆を見せながら、「これはなんですか」と聞きます（これは、健忘失語または視覚失認の有無をみるもので、身の回りのものなら、他のものでもよいです）。

<設問7>

「次に言う文章を繰り返してください」と言ってから、「みんなで力を合わせて、綱を引きます」と、はっきりと、また、ゆっくり伝えます。1回のみで評価します。一つの言葉でも、言い間違えた場合は、誤答です。

<設問8>

「私の言うとおりにしてください」と言ってから、「右手にこの紙を持ってください」と、相手の正面に紙を差し出します。紙を右手で持ったのを確認したのち、「それを半分に折りたたんでください」と言います。次に、紙を折りたたんだのを確認したのち、「私に渡してください」と言います。途中で混乱した場合、そこで指示を中止します。但し、耳の聞こえにくい人の場合、指示を繰り返すことは問題ありません。各段階ごとに正しく作業した場合、正答とします（これらは失行の有無を見る検査です）。

<設問9>

「右手をあげなさい」と書かれた仮名をふったボードを示し、「紙に書いてある言葉を声を出して読んで下さい」と言います。正しく読んだことを確認した後に、「その動作をしてください」と言います。右手をあげた場合は正答ですが、左手の場合は誤答になります。また、「字が読めない」などとして実施しなかった場合にも、誤答です（これは失読の有無を見る検査です）。

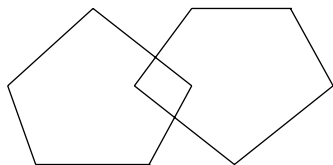
<設問10>

「何か文章を書いてください」と言い、鉛筆と白紙を渡します。自分の名前などでなく、一つの文章（主語と述語が含まれるのがいいのですが、厳格にはしません）を書くように求め、正確に書けた

場合に正答とします。なお、実施しなかった場合には、誤答とします（これは失書の有無を見る検査です）。

<設問11>

重なった5角形の図形の書かれた用紙を渡し、「同じものを書いてください」と言い、それを模写させます。5角形が2つ一箇所で交差していれば、正答とします。手指のふるえは無視してください。六角形は誤答です。



<一口メモ> 認知症の種類と中核症状

アルツハイマー病や血管性認知症では、中核となる症状は記憶障害と見当識障害です。一方、性格変化や意欲低下などの前頭葉症状が中核となる認知症には、ピック病があります。

